

富田湯河原町長との意見交換会 報告

9月17日、富田幸宏湯河原町長がクレーレ熱海ゆがわら工房を訪れ、プレ実習ゼミ中の東京藝大の学生と湯河原のまちづくりについて意見交換会を開きました。意見交換会には、学生を温泉に招待して下さった「ふきや」山本一郎氏(湯河原温泉旅館協同組合理事長・湯河原温泉まちづくり協議会会長)、「いすゞ旅館」渡邊宗男氏(伊豆湯河原温泉観光協会会長・湯河原温泉まちづくり協議会副会長)も参加し、活発に意見が交わされました。



意見交換会の様子

富田湯河原町長(中央)、山本氏(左)、渡邊氏(右)

○学生の意見

湯河原には初めて来たけれど、懐かしいような雰囲気がする
少し寂しい雰囲気もあるけれど、それが押し付けがましくなく、心地良い
芸術創作を行うにはとても恵まれた環境
夜間、街灯が少なく、暗くて少し怖い
坂道が多いのでバリアフリーなまちづくりをして欲しい



○学生からの提案

宿泊客が旅館内に留まるだけで完結してしまうのではなく、街歩きが楽しくなる工夫をする

例)旅館ごとにアーティスト・または芸術を学ぶ学生によってプロデュースする

暗い夜道を照らすアートランプの設置(道標としての役割も果たす)

創作活動に適した地なので、アーティスト・イン・レジデンスとしての活用をする

廃業した旅館の有効活用

例)おばけ屋敷としてプロデュースする

川沿いをもっと活発化し、気軽に川べりで遊べる場所を作る

ゆっくりのんびり長期滞在できる温泉としての湯河原を押し出す

ネットを中心とした広報の強化(“温泉”と検索して上位に出てくる)



積極的に湯河原のまちを歩いて観察した学生たちは、新しい視点から湯河原の良いところを発見してくれたようです。

古くから温泉街として人々に親しまれた湯河原。昔からある良さを壊さない配慮の上で、学生の斬新なアイデアを活かせれば、面白いまちづくりができるのではないかと、という可能性が示唆された意見交換会となりました。

